

# 廃食油で市民バスを走らせよう

バイオ・ディーゼル燃料（BDF）推進事業



家庭から持ち込まれた廃食油を回収用ポリタンクに入れる南方地区の住民（9/22・南方町公民館）

※BDF

Bio Diesel Fuel(バイオディーゼルフューエル)の略で、軽油の代わりに使うことができる植物性燃料のこと。家庭で天ぷらや揚げ物をした後の捨てる油を廃食油といい、この廃食油を精製して造られます。今までごみにしていた100%の廃食油から約90%の燃料ができます。

【表1】 今後の回収日、回収場所

	回収日	時間
南方公民館 西郷公民館 東郷公民館	平成18年11月24日(金)	午前7時 ～ 午前8時
	平成18年12月22日(金)	
	平成19年1月19日(金)	
	平成19年2月16日(金)	
	平成19年3月16日(金)	
(株)ウジエ スーパー 南方店 駐車場	平成18年11月25日(土)	午前9時 ～ 午前11時
	平成18年12月23日(土)	
	平成19年1月20日(土)	
	平成19年2月17日(土)	
	平成19年3月17日(土)	
とよま観光物 産センター 「遠山之里」 道の駅みなみ かた「もっ りの里」	平成18年11月5日(日)	午前10時 ～ 午後3時
	平成18年11月12日(日)	
	平成18年11月19日(日)	
	平成18年11月26日(日)	

市では、家庭や公共施設から出る廃食油を再利用し、市民バスと市の公用車用燃料として活用する「バイオ・ディーゼル燃料（BDF）推進事業」を実施しています。  
この事業は、廃棄物の資源循環によるごみ減量化や、二酸化炭素排出量の削減、安価な燃料を使用することによる市の財政負担軽減など、さまざまな効果が期待されます。  
今月号では、新しいエネルギーとして注目されているBDFを活用した取り組みを紹介します。

## 家庭や公共施設から排出される廃食油をリサイクル

市では、家庭でできる新たなリサイクルの取り組みとして、不要になった廃食油から車用の燃料（バイオ・ディーゼル燃料（BDF）※）を造り、その燃料で市民バスや公用車を走らせる「バイオ・ディーゼル燃料（BDF）推進事業」を10月からスタートしました。この事業は、「登米市環境基本条例」の制定に向けた先行事業の一つです。

## 廃食油の回収

廃食油の回収は、試験的な試みとして南方地区の一般家庭を対象に9月からスタートしました。

回収場所も当初は、町内3公民館と(株)ウジエスーパー南方店だけでしたが、ほかの地区からの協力依頼が多く寄せられたこともあり、10月と11月の2カ月間のみ、とよま観光物産センター「遠山之里」と、道の駅みなみかた「もっりの里」の2カ所を追加。さらに10月からは、市内に居住する人であれば、誰でも廃食油を持ち込むことができるようになりました。

本格実施の19年度からは、回収場所を増やしていく予定です。

持ち込みをする場合は、廃食油をペットボトルに入れて、回収場所と時間を守って持参してください【表1】。

## 地区住民の協力

回収日の初日となった9月22日早朝7時、南方地区の各公民館には、公衆衛生組合や市の関係者らが集合。20リットルのポリタンクを3つ用意し、廃食油を持ってくる人を待っていました。



南方公民館では回収日初日にもかかわらず、たくさんの廃食油が集まりました

地区の人には、事前に回覧やチラシなどで事業の説明や回収日などが周知されていましたが、果たして予定した量の廃食油が集まるかどうか、不安がありました。  
7時を少し過ぎたころから、ペットボトルが入ったビニール袋を持って歩いてくる人、車から降りて両腕にペットボトルを抱えてやってくる人などが次々に集まってきました。「おはようございます」「ご苦労さまです」とあいさつを交わし、準備していたポリタンクに廃食油を入れる住民。その後も持参する人たちが訪れ、約1時間でポリタンク1つがいっぱいになりました。関係者も安心していました。